

「日本一の知恵工場」に学ぶ!

～その7～

社長と社員の

人生道場

株式会社サケ会長

松岡 浩

Matsuoka Hiroshi



それから皆さん、常に「一流」を意識してください。

一流の方は、人の話を聴くときにまづ腕は組みません。営業や販売でも腕を組みながら話はいかないでしょう。

他にも気配り、心配り、掃除、ごみ拾い、そんなちよつとしたことでも薄紙1枚1枚を毎日積み重ねていくことで少しずつ一流に近づいていきます。

*

「許し難きを許すことで肩の荷が下りる」。これも生き方の極意の一つです。

長く生きていると、「あいつだけは許せない」と思う相手が1人はいるものです。

こっちは怒りでイライラして眠れないのに、当の相手はぐっすり

寝ていたりするんですよ。こんな悔しいことつてないですよ。だから許し難きことも許して肩の荷を下ろすことです。

「海より広いものは空であり、空より広いものは人の心である」という名言もあります。

*

最後は「無上意」、つまり「これ以上ない」という実践のお話です。水は99度まで上がり、あと1度上げると水蒸気に変わり、重い蒸気機関車を動かすほどの力になります。

皆さんの今の生き方は「99%」ではありませんか? あと1%上げて無上意の世界に入りませんか、というお誘いで、最後にこの話を紹介します。

「泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せてバスは新宿に向かい走っていました。バスが次のバス停に着いたとき、後方から『待ってください、降ります』と若い女の人々の声が続いてきました。子ども泣き声がだんだん近づいて

くることで、泣いた赤ちゃんを抱いているお母さんだと分かりました。...

お母さんがお金を払おうとしますと、運転手さんは「目的の地はここですか」と聞きました。

そのお母さんは「新宿駅まで行きたいのですが、子どもが泣くのでここで降ります」と言いました。

すると運転手さんは「ここから新宿駅まで歩いていくのは大変です。目的地まで乗っていきましょう」と言いました。

そしてマイクのスイッチを入れ「皆さん、この若いお母さんは、赤ちゃんが泣いて皆さんにご迷惑がかかるのでここで降りると言っています。子どもは小さいときは泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せていってください」と言いました。...

ほんの数秒後に...1人の乗客の拍手につられてバスの乗客全員が拍手が返事となったのです。若いお母さんは何度も何度も頭を下げていました」

これが無上意の世界ということとです。お互いに、人様や自分の中で無上意を探し求めて歩いていこうではありませんか。

(宮崎県職業能力開発協会が開催した講演会より終わり)

「成長は素直さに比例する」といいます。

講演や人と話をしているときも、頭のいい人ほど疑いを持って聞きます。逆に、すんなり聞き入れる素直さを持つ人ほど成長します。

何かを頼まれたら「はいっ」と返事をし、その期待に応えることを習慣にしましょう。

「どうせ無理」は禁句です。とにかく「はいっ」と返事をすればいい。そこから始まっていきます。

私は家内に何を言われても「はいっ」と返事をします。とにかく毎日おだやかに過ごしたいのです(笑)。

こう生きれば、あなたにも

「一流」が見えてくる